

# 産業建設常任委員会視察報告書

平成29年1月10日

## 1 視察日、視察先、事項

- (1) 11月15日(火) 岡山県玉野市  
地域公共交通について
- (2) 11月16日(水) 香川県坂出市  
地域公共交通について
- (3) 11月16日(水) 香川県丸亀市  
中小企業振興策について

## 2 参加委員

中村博行委員長、長谷川知司副委員長、伊藤實委員、杉本保喜委員、松尾数則委員、山田伸幸委員、尾山信義議長

## 3 報告事項

- (1) 岡山県玉野市  
地域公共交通について

### 【視察の目的】

当市の地域公共交通の見直しを推進するための先進地視察

### 【視察先の状況】

玉野市の新公共交通システム導入までの行程概要

平成22年4月

コミュニティバス(シーバス)のアンケート調査、市内高校生、老人クラブ  
2,300人に乗降調査

平成22年8月

地域公共交通会議を設置

平成23年9月～翌年3月

地域公共交通確保維持事業の調査事業を活用

平成23年10月～平成24年3月

住民、車内、事業者へのアンケート調査及び地域説明会(市内15会場)計画  
のパブ・コメ実施

平成24年2月

市地域公共交通計画策定(5年間)

平成24年度

## 周知広報と利用促進並びに実証運行評価の検証

平成25年4月

本格運行の開始

### 実証運行評価

- ① 利用人口の動態  
人口カバー率が91.3%→98.6%に向上。利用者の大幅な増加。
- ② 利便性の向上  
周辺部を中心に運行頻度が高まり、市中心部への所要時間が短縮された。
- ③ 運行効率の向上  
周辺部を中心に利便性が向上、行政負担が前年度より大幅に軽減(運行効率の向上)
- ④ サービスの向上、生活への効果  
利用者の満足度が高く、更なる利用開拓を検討。
- ⑤ 利用者の増加  
平成24年3月、5,816人から平成25年、3月8,465人の利用者増加。

公共交通はシーバスとシータクの二本立てで、市内4エリアを網羅している。シーバスは東部地区と中心部を2路線で運行、運賃は一律100円である。また、シータクの乗り場は中心部よりも周辺部に多く設置しており、乗り換え施設も数か所あるので、中心部への利便性が図られている。利用者登録が必要で、利用の際は1時間前に予約することになっている。運賃は1乗車200円、高齢者、障害者、高校生等は100円である。

採用した交通システムは玉野市に特化したもので、状況の変化にも対応が効くものであり、導入の効果は

- ① 予約時間の短縮
- ② 電話対応の公立化
- ③ データ分析によるダイヤ、便数などの適正化
- ④ メール予約による利便性の向上
- ⑤ 運行効率化による支出の減少

### 【考察】

玉野市の地域公共交通システムでのデマンド交通は、山陽小野田市の「戸口から戸口へ」思想と異なり、市内全般における利便性、公共性を追求してシーバス

(デマンドバス)、シータク(デマンドタクシー)が用途別に使える点が特徴であり、年齢層にとらわれずに結節点でのつながりを重視して改善を心がけ、その成果は、利用者の増加で現されている。

市の補助額を概略でみると、平成23年度のデマンドバス単独運行時は6,045万4,000円であったが、平成27年度のデマンドバス、デマンドタクシー、石島航路の3系統の運行に対しては5,059万9,000円と手広くやりながらも補助金を削減できているのである。そして、現在の形までに国交省と話し合い指導を受けながら、専門業者とのアイデアをいただき紆余曲折の作業を繰り返してきたそうである。

また、人口減少をはじめとする市内の人口動態を地域や事業者等の関係者へ、アンケートや意見交換の場を設けて常に利便性の向上に心がけている姿勢は、注目すべきところであろう。

正に地域公共交通のあり方を模索している当市における極上の参考例と言える。

## (2)香川県坂出市

地域公共交通について

### 【視察の目的】

当市の地域公共交通の見直しを推進するための先進地視察

### 【視察先の状況】

- ① 公共交通計画策定後の検証について
  - ・計画に基づいて、バスやデマンドの路線を導入する。
  - ・運行開始後、1年を経過した頃に住民にアンケート調査を実施。
  - ・利用実績およびアンケート調査の結果を基に、坂出市地域公共交通活性化協議会で見直しを検討。
- ② コミュニティバスの運行ルートの決定について
  - ・計画策定時に行ったアンケート調査の結果を基に、坂出市地域公共交通活性化協議会で議論を行って、ルート決定した。
  - ・1周30分のルート設定となるようにした。
- ③ 利用促進策について
  - ・自治会総会等での周知活動。
  - ・各種イベントの実施。(出発式、乗車〇〇千人乗車記念等)
  - ・地元イベントへの参加。
  - ・交通マップや駅前案内表示板等の設置。
  - ・ノベルティグッズの作成。(缶バッジ等)
- ④ 各種交通機関等との連携、調整について
  - ・路線バスとデマンド型乗合タクシーとの利害の衝突を避けるため、路線バス

沿線300m以内にはデマンド乗降場所を設置しない。

- ・デマンド型乗合タクシーと路線バスとは乗り継いで利用すべきものなので、市街地には坂出駅と市役所を除いてデマンド型乗合タクシーの乗降場所を設置しない。

⑤ デマンドタクシーの利用率について

【平成27年10月1日～平成28年9月30日実績】

- ・府中・西庄地区・・・利用者数 2,573人/年、稼働率 63.7%
- ・加茂・神谷等地区・・・利用者数 841人/年、稼働率 33.0%
- ・川津地区・・・利用者数 303人/年、稼働率 14.2%

市長の公約から公共交通空白地帯の解消に至ったものの、循環バスの定時路線運行や利用者負担が100円と低額のため行政負担が大きい。

市街地におけるタクシーの需要が減り、タクシー業界圧迫の懸念からルート拡大に制約がある。

坂出市公共交通マップはバス、タクシー、電車の情報が一目で分かる優れものである。

【考察】

坂出市地域公共交通については、イベントの企画など努力は評価できるものの、既存の交通機関を優先していることや民間業者への対応など本市同様の課題、状況も感じられた。本市としても今後思い切った施策展開が必要と思われる。

(3) 香川県丸亀市

中小企業振興策について

【視察の目的】

当市の中小企業振興を推進するための先進地視察

【視察先の状況】

- ① 産業振興を総合的かつ計画的に推進するための施策を定めた丸亀市産業振興計画を策定。
- ② 各種産業振興施策の実施について丸亀市産業振興推進会議で振興を管理する。企業訪問等によるニーズ調査を行い、施策をレスポンスよく展開する。
  - ア 企業訪問専門員によるニーズ調査を行う。
  - イ 産学官等の連携強化を図る。
  - ウ 丸亀版施策等ガイドブックなどによる各種施策の効果的な情報提供を行う。
  - エ 丸亀サテライト等相談窓口の充実と積極的活用を行う。
  - オ 空きオフィス等活性促進補助金による商店街の活性化を図る。

カ 丸亀うちわ等地場産業の振興と積極的なPRを行う。

③ 融資制度

ア 産業振興支援補助金

企業訪問等で把握した企業ニーズに基づき補助メニューを適切に変更して実施する。(平成28年5月12日予算オーバーにより受付終了)

イ 空き店舗・空きオフィス等活用促進補助金

中心市街地重点整備区域内において、空き店舗または空きオフィス等を改装して店舗または事業所を開設する事業者には改装費の一部を補助する。

④ 企業の評価

アンケート調査、企業訪問専門員によるニーズ調査を行い企業の評価を把握する。

平成23年4月に地域経済の健全な発展と市民生活の向上を目的とした丸亀市産業振興条例が制定され、平成25年2月には平成29年度までの5か年の産業振興計画を策定し、様々な振興策を展開している。

産業ごとにテーマを設定、テーマに基づき具体的な施策を示し実施する。例として、商工業・新産業の分野では①企業間の情報共有、連携、②ベンチャー、経営革新の推進、③中心市街地(中央商店街)の活性化、④地場産業の振興と積極的なPRといった項目を設け、各項目に企業訪問専門員の登用など取り組むべき施策をあげている。また、取り組む項目は産業振興計画管理表で検証し、次につなげている。

産業振興支援補助事業の充実には目を見張るものがある。職場環境改善や人材育成、創業など11の補助対象事業に対し補助率3分の2以内で具体的な金額を提示している。

中小企業支援ガイドブックや企業立地促進奨励制度などのパンフレットも分かりやすく、支援に対する積極的な思いが伝わってくる。

【考察】

中小企業振興条例の制定でとどまっている本市にとって、アクションプランの策定が急がれる。市内中小企業事業者や経済の活性化のためにも、重点テーマと具体的な施策を明記した丸亀市産業振興計画や支援補助事業は大いに参考になる。